

savecnf および loadcnf コマンドで定義される Cisco WAN Manager (CWM) フィールド

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[savecnf コマンド \(保存設定 \)](#)

[属性](#)

[関連コマンド](#)

[構文](#)

[機能](#)

[loadcnf コマンド \(ロード設定 \)](#)

[属性](#)

[関連コマンド](#)

[構文](#)

[機能](#)

[説明](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、SuperUser **savecnf** コマンドおよび **loadcnf** コマンドの Cisco WAN Manager (CWM) の `node_name` フィールドについて説明します。

注意： SuperUser コマンドの使用は、シスコの従業員およびシステム アドミニストレータのようなその他の承認済みユーザに限定される必要があります。一部の SuperUser コマンドを不適切に使用すると、システムの誤動作または完全な障害が発生することがあります。

前提条件

要件

CWM のメンテナンスと管理の知識があることが推奨されます。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではあ

りません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

savecnf コマンド (保存設定)

savecnf コマンドでは、CWM ワークステーションのディスクに設定イメージを保存します。

属性

Jobs: Yes Log: Yes Lock: Yes Node Type: IPX, IGX, BPX, IPX/AF

関連コマンド

- loadcnf
- runcnf
- clrcnf

構文

savecnf backup_id| clear node_name dest_SV_node [dest_SV_ip]

コマンド引数	説明
backup_id	CWM に保存する設定の名前を指定します。バックアップ ID は 1 ~ 8 文字の英数字にして、最初の文字を英字にする必要があります。設定名では大文字と小文字が区別されます。
clear	バッファ領域をクリアする必要があることを指定します。
node_name	設定を保存するノード名を指定します。すべてのノードを指定するには「*」を指定します。
dest_SV_node	CWM を接続して指定の backup_id を受信するノード名を指定します。
[dest_SV_ip]	IPX/AF インターフェイス シェルフのみの場合、設定イメージを受信する CWM の IP アドレスを任意に指定します。

機能

savecnf コマンドには 2 つの応用方法があります。ルーティング ネットワーク内でノードのすべての設定が保存されるか、1 つの IPX/AF インターフェイス シェルフの設定が特定の CWM ワークステーションに保存されます。保存された設定は、loadcnf コマンドおよび runcnf コマンドを使用して BRAM に復元できます。savecnf コマンドは次の状況で実行してください。

- ネットワークで設定を変更したあと
- 新しいシステム ソフトウェア リリースにアップグレードする前

loadcnf コマンド (ロード設定)

loadcnf コマンドでは設定イメージを CWM からノードにロードします。

属性

Jobs: Yes Log: Yes Lock: Yes Node Type: IPX, IGX, BPX, IPX/AF

関連コマンド

- dspcnf
- runcnf
- savecnf

構文

loadcnf backup_id | clear node_name source_SV_node

コマンド引数	説明
backup_id	ロードするバックアップ設定ファイルの名前を指定します。設定名では大文字と小文字が区別されます。
clear	設定のロードに使用するコントロールカードのバッファ領域をクリアすることを指定します。
node_name	バックアップ設定ファイルをロードするターゲットノードを指定します。
source_SV_node	設定ファイル backup_id が常駐する CWM に接続するノードを指定します。

機能

このコマンドでは、保存したネットワーク設定ファイルが、CWM から 1 つのノードまたはすべてのノードにダウンロードされます。 **savecnf** コマンドを参照してください。ダウンロードされた設定イメージは、ノードコントローラカードのメモリのバッファ領域に一時的に保存されます。このプロセスはバックグラウンドで実行され、設定ファイルが大きい場合は数分かかることがあります。設定は、ロードされてもまだ復元されていません。設定は、**runcnf** コマンドにより、コントローラカードの BRAM メモリに復元されます。

ネットワーク設定のロードと復元後は、この目的に使用したコントロールカードのバッファ領域をクリアし、ファームウェアなどのその他のダウンロードプロセスに使用できるようにしてください。バッファ領域をクリアするには、**backup_id** の代わりに **clear** パラメータを指定して **loadcnf** を実行します。個別ノードのバッファは **node_name** で指定し、すべてのノードは * で指定します。バッファ領域をクリアするために、**source_SV_node** パラメータを指定しないでくだ

さい。

このコマンドを IPX/AF インターフェイス シェルフで実行するには、Telnet でシェルフに接続するか、シェルフに接続しているコントロール ターミナルを使用します。

説明

これまで、**savecnf** コマンドおよび **loadcnf** コマンドで使用する CWM ノードは CWM ゲートウェイ ノードでした。しかし、これからは常にこのようになるとは限りません。ネットワーク IP アドレスが CWM の config.sv ファイルで設定されていると、CWM はネットワーク IP アドレスを使用してノードと直接対話するので、これによって混乱することがあります。つまり、CWM は CWM ゲートウェイ ノードでリモート ノードにメッセージを送信しなくなります。config.sv ファイルを表示するために、より頻繁に **/usr/users/svplus/config.sv** UNIX コマンドが使用できます。

言い換えると、ネットワーク IP アドレス (nwip) が CWM で指定されている場合、CWM の CWM ノードが、CWM ゲートウェイ ノードの代わりにノードそのものになります。これは、メッセージが CWM ゲートウェイ ノードを通過しないためです。

savecnf コマンドおよび **loadcnf** コマンドを活用する最適な方法では、CWM ノード フィールドに「*」を指定して CWM IP アドレスを指定し、どこに設定を保存するか、またはどこから設定を復元するかを指定します。このようにすると、CWM ノードの ID を気にする必要はなくなります。

次に例を示します。

```
+-----+ +-----+
| node1 | | node2 |
| (CWM Gateway |-----| node2 |
| node) | | |
+-----+ +-----+
|
| +-----+
+---| CWM | IP address: 133.8.3.8
+-----+
```

上の例では、CWM で nwip がオフのとき、node2 にログインしたユーザは次のいずれかの形式を使用して node2 設定で **savecnf** コマンドまたは **loadcnf** コマンドを実行できます。

- **savecnf node2cnf node2 node1**
- **savecnf node2cnf node2 * 133.8.3.8**

CWM で nwip がオンのとき、node2 にログインしたユーザは次のいずれかの形式を使用して node2 設定で **savecnf** コマンドまたは **loadcnf** コマンドを実行できます。

- **savecnf node2cnf node2 node2**
- **savecnf node2cnf node2 * 133.8.3.8**

関連情報

- [IPX、IGX、および BPX ノードでの設定の保存と復元 \(CWM が必要\)](#)
- [WAN スイッチング製品のための新しい名前とカラーのガイド](#)
- [Software Center : WAN スイッチング ソフトウェア \(登録ユーザ専用\)](#)

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)